

Financial Statements

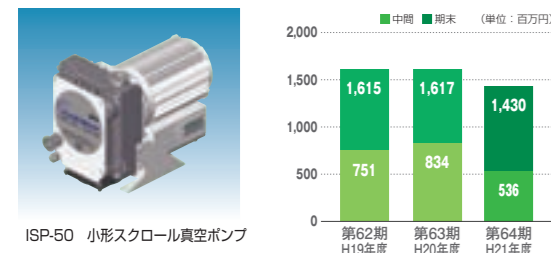
た一般工業真空用途向けのGVSシリーズのモデルチェンジ、中形真空ポンプSP-1000のモデルチェンジを実施しました。塗装機器製品では、ヨーロッパやアメリカで好評を博した自動車補修用スプレーガンSUPERNOVAシリーズ、国内向けの自動車補修用スプレーガン極みシリーズ、空気使用量を削減した省エネルギータイプの攪拌機などを発売しました。販売におきましては、新市場・新販路の拡大を図るため営業員の再配置を実施し、お客様密着型営業への転換を図ってまいりました。また、購入費の削減や生産工程の改善などの原価低減策の

製品別概要

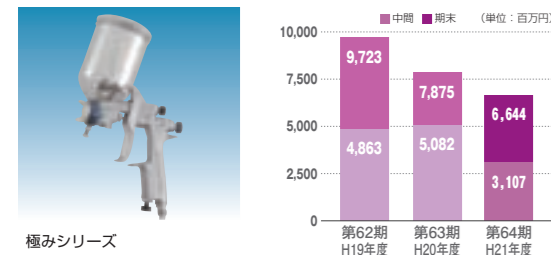
圧縮機製品



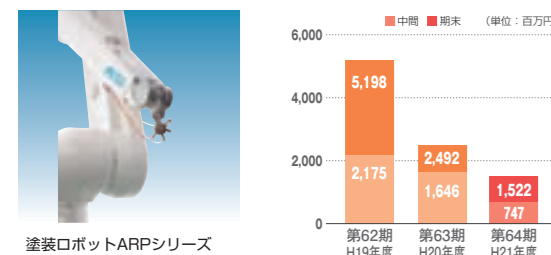
真空機器製品



塗装機器製品



塗装設備製品



実行や人件費を含めた全ての経費の見直しを行い、利益の確保に注力してまいりました。その結果、当連結会計年度の業績は売上高17,886百万円(前連結会計年度比20.3%減)、営業利益896百万円(同55.6%減)、経常利益1,103百万円(同45.6%減)、当期純利益711百万円(同48.3%減)となり、前連結会計年度と比較し減収減益となりました。業績動向といたしましては、上半期は世界同時不況の影響により厳しい状況でしたが、下半期に入り売上高・利益ともに回復傾向で推移いたしました。

Segment Of Statements

売上高：8,288百万円 構成比率：46.3%

国内市場は、下半期に回復の兆しが見えてきたものの上半期の低迷が影響し、売上高は前連結会計年度を下回りました。海外市場は、アジア向けは僅かながら伸長しましたが、ヨーロッパ・アメリカ向けは減少しました。この結果、売上高は8,288百万円(前連結会計年度比20.7%減)となりました。オイルフリー小形プアスターコンプレッサEFBS (ESTIBO) が平成21年度第30回優秀省エネルギー機器表彰にて(社)日本機械工業連合会会長賞を受賞し、高い省エネルギー技術が証明されました。

売上高：1,430百万円 構成比率：8.0%

国内市場は、上半期は低迷したものの下半期は急激な回復が見られました。しかし、上半期の低迷が影響し、売上高は前連結会計年度に比較し減少しました。海外市場は、上半期に低迷しましたが下半期はヨーロッパの回復や中国の成長により急激に回復し、増加しました。この結果、売上高は1,430百万円(同11.6%減)となりました。最先端の科学研究施設J-PARC (大強度陽子加速器施設) に採用され、優れた品質が証明されました。J-PARCとは日本原子力研究開発機構と高エネルギー加速器研究機構が建設・運営する世界最高クラスの大強度陽子ビームを生成・利用する最先端の科学研究施設です。

売上高：6,644百万円 構成比率：37.2%

国内市場は、上半期に比較し下半期は回復傾向にありましたが、売上高は前連結会計年度に比較し減少しました。海外市場は、ヨーロッパは減少し、アジアはインド・中国・韓国により伸長、アメリカも自動車補修向けを中心に伸長しました。この結果、売上高は6,644百万円(同15.6%減)となりました。当社の旗艦スプレーガンとして発売したSUPERNOVAが、ヨーロッパ・アメリカで好調、国内では自動車補修用スプレーガン極みシリーズが好調でした。

売上高：1,522百万円 構成比率：8.5%

塗装設備の国内市場では、自動車関連を中心とした設備投資抑制の影響を受け、売上高は大幅に減少しました。海外市場においても、景気後退と円高により大幅に減少しました。この結果、売上高は1,522百万円(同38.9%減)となりました。

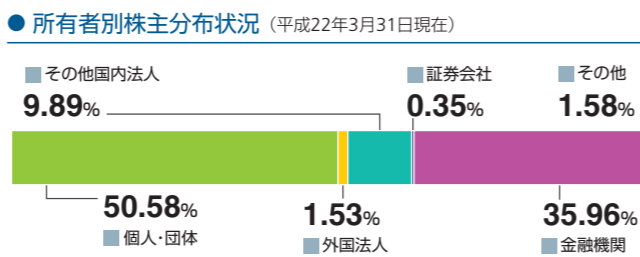
会社の概要

会社の概要	
商号	アネスト岩田株式会社 (ANEST IWATA Corporation)
創業	大正15年5月1日
設立	昭和23年6月2日
資本金	3,354,353,175円
従業員数	589名
本社	横浜市港北区新吉田町3176番地
工場	横浜、秋田、福島
支店・営業所	札幌、盛岡、仙台、郡山、小山、新潟、埼玉、東京、千葉、神奈川、松本、浜松、名古屋、金沢、京滋、大阪、岡山、広島、福岡

- 営業品目
- (1) 圧縮機 ビストンタイプ、スクロールタイプ、ロータリータイプ
 - (2) 真空機器 ドライスクロール真空ポンプ
 - (3) 塗装機器 スプレーガン、エアレス塗装機、静電塗装機、塗料供給装置、塗装室、乾燥炉、その他各種塗装機器
 - (4) 塗装設備 塗装ロボット、レンブラクター、自動塗装装置、塗装プラント

役員氏名 (平成22年3月31日現在)			
代表取締役会長	森本 潔	常務監査役	滝田 英行
代表取締役社長	壺田 貴弘	監査役	我妻 隆邦
取締役	飯田 紀之	監査役	藤越 勉
取締役	岩田 一	監査役	木内 渥
取締役	平瀬 彰		

株式の状況	
発行可能株式総数	189,290,000株
発行済株式の総数	46,165,505株
株主数	4,356名



大株主		
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
第一生命保険相互会社	2,572	5.7
アネスト岩田得意先持株会社	1,979	4.4
株式会社常陽銀行	1,841	4.1
明治安田生命保険相互会社	1,820	4.0
アネスト岩田仕入先持株会社	1,791	3.9
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,514	3.3
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,287	2.8
株式会社りそな銀行	1,234	2.7
株式会社みずほコーポレート銀行	1,105	2.4
アネスト岩田従業員持株会	1,011	2.2

持株比率は、自己株式(765,657株)を控除して計算しております。

Company Information

株主メモ	
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	毎年3月31日
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号
特別口座の口座管理機関	みずほ信託銀行株式会社
〔郵便物送付先〕	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
〔電話お問い合わせ先〕	みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電話センター 0120-288-324 (フリーダイヤル)

同取次所 みずほ信託銀行株式会社 全国各支店
みずほインベスターズ証券株式会社本店及び全国各支店

公告方法 電子公告(下記当社ホームページに掲載)。ただし、事故その他の事由で電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

単元未満株式の売渡請求制度

当社は単元未満株式の売渡請求制度を導入しております。詳細につきましては、上記株主名簿管理人までお問い合わせください。

お知らせ

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(みずほ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に登録された株式に関する各種手続きにつきましては、みずほ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(みずほ信託銀行)にお問い合わせください。
- 未受領の配当金につきましては、みずほ信託銀行本支店でお支払いたします。

ホームページアドレス
<http://www.anest-iwata.co.jp>

(株主様お問い合わせ先)
アネスト岩田株式会社
〒223-8501 横浜市港北区新吉田町3176番地
IR TEL (045) 591-9344
FAX (045) 591-9398



第64期 事業レポート

平成21年4月1日から平成22年3月31日まで

株主の皆様へ

To Our Shareholders

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。また、日頃のご支援に対し心から厚く御礼申し上げます。

ここにアネスト岩田グループ第64期(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)の事業レポートをお届けいたします。

当連結会計年度における世界経済は、一昨年秋以降の世界同時不況の影響を受け上半期は低調に推移しましたが、下半期は中国・インドなど新興国の成長や各国の景気対策等により、景気は回復してまいりました。当社グループを取り巻く事業環境も同様に、下半期に入り製造業の生産が回復し設備投資にも回復の兆しが見えてまいりました。

当社グループにおきましては、利益の確保を経営戦略・経営行動の最優先事項として、売上高の減少に対しては生産体制の見直しや経費削減を進めるなど、最適の効率とコストを追求してまいりました。一方、ロシアやドイツなど有望な海外市場に対する投資、国内市場における有望市場の開拓・深耕、新製品開発には継続的に経営資源を投入し、業績の回復に全力をあげて取り組んでまいりました。

その結果、当連結会計年度の業績は売上高17,886百万円(前連結会計年度比20.3%減)、営業利益896百万円(同55.6%減)、経常利益1,103百万円(同45.6%減)、当期純利益711百万円(同48.3%減)と、前連結会計年度と比較し減収減益となりました。減収減益ではありましたが、今回の不況を機に売上高が約6割に減少(第62期対比)しても利益を確保できる収益構造となり、売上げの増加が利益に結び付きやすい会社となりました。

当期末の配当につきましては、1株につき5円(当期の年間配当金は期末配当のみの、1株当たり5円となり、前期の8円に比べ3円の減配となります。)とさせていただきます。

今後につきましては、中面に記載いたしました中期経営計画(平成22年度から平成24年度)に従い、企業業績の向上に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成22年6月

代表取締役社長

壺田 貴弘

営業概況

当連結会計年度における世界経済は、上半期は一昨年秋に米国大手証券会社の経営破綻を機に発生した世界同時不況の影響を受け低調に推移し、下半期は中国・インドなど新興国の成長や各国の景気対策等により、景気は回復してまいりました。

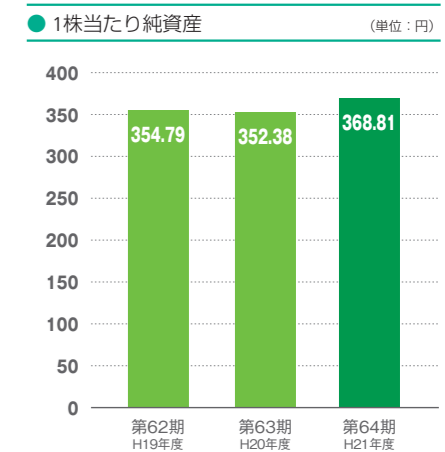
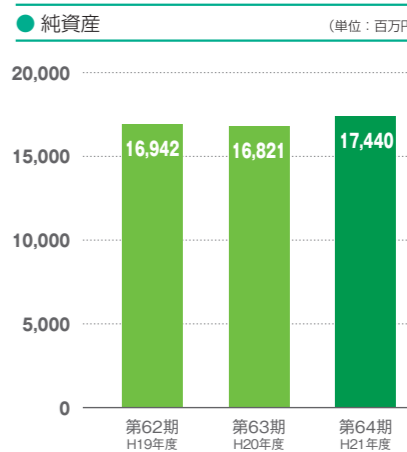
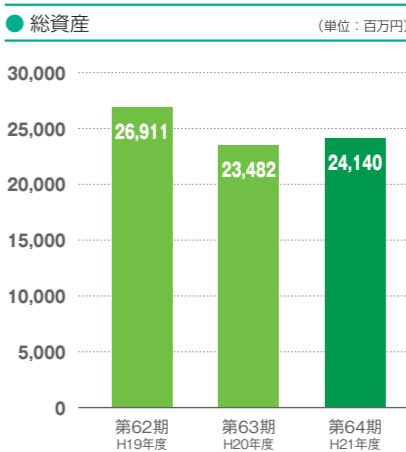
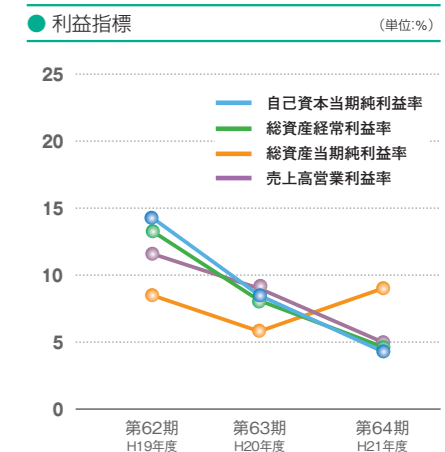
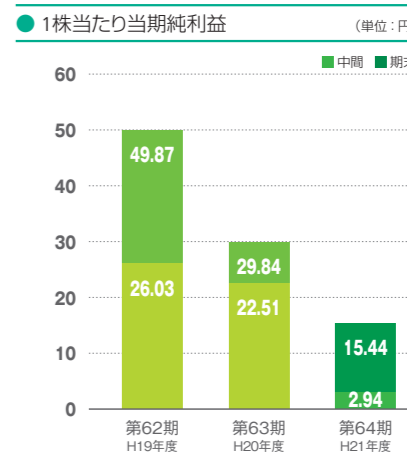
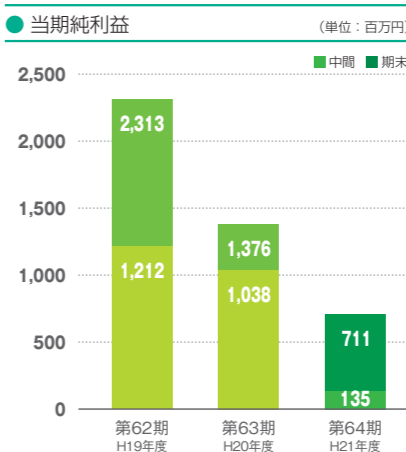
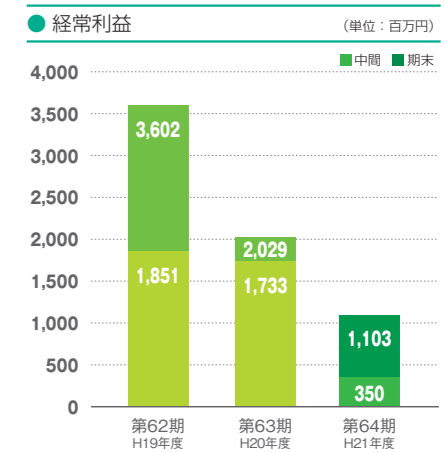
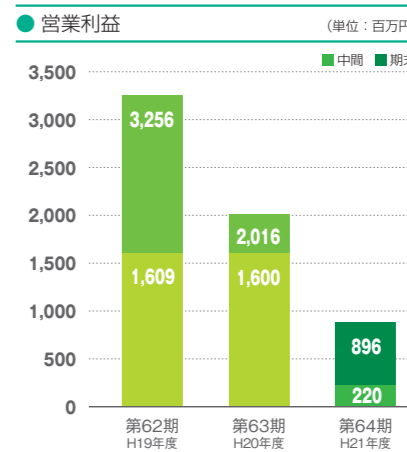
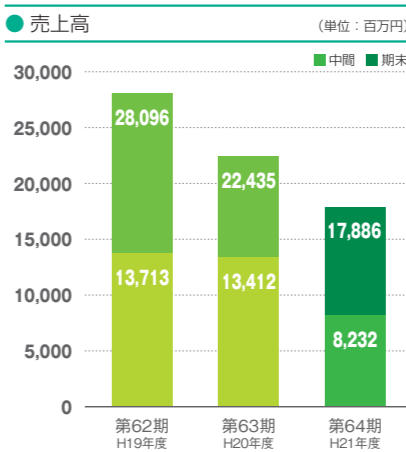
日本経済においては、輸出に回復感が現れたものの、雇用・所得状況に改善が見られずデフレ懸念が強まるなど厳しい景況が続きました。当業界においても、主要なお客様である製造業の生産活動は下半期に入り回復傾向にあり、設備投資にも回復の兆しが

見えております。このような状況のなか当社グループは市場ごとのニーズをとらえ、有望市場の開拓・深耕に積極的に経営資源を投入し、諸施策を実行してまいりました。

新製品開発におきましては、圧縮機製品では平成21年度第30回優秀省エネルギー機器表彰にて日本機械工業連合会会長賞を受賞したオイルフリー小形プアスターコンプレッサのシリーズ化や当社が世界に先駆けて開発したオイルフリースクロールコンプレッサのモデルチェンジなどを実施しました。真空機器製品では、小形機のISP-50の発売、低真空領域を狙っ

連結業績ハイライト

Consolidated Financial Highlights

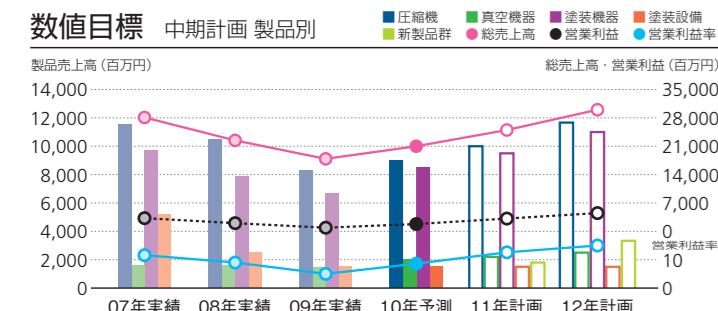


アネスト岩田の成長戦略

当社グループは、市場環境の変化に対応し、成長性拡大と収益拡大のための中期的な成長シナリオを描くべく、新たに2010年度から2012年度までの中期経営計画を策定いたしました。
 当社グループは、経済状況が厳しい時でも将来に対する投資は継続してまいりました。この中期は、その成果を發揮する中期と考え、前年までのプレーキからアクセルへチェンジし、成長性の拡大と収益の拡大のため積極的な企業活動を展開してまいります。

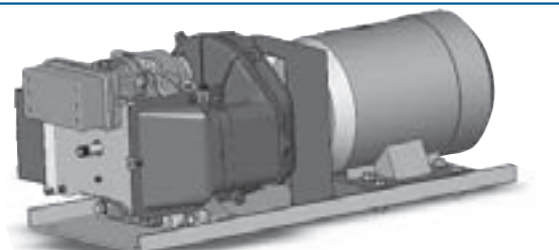
成長性の拡大と収益の拡大のための重点施策

- ① 新製品の開発と市場投入
- ② グローバル化の更なる推進
- ③ 業務の効率化と販売・価格競争力の向上



圧縮機

- 国際競争力のある製品開発
 - 世界最高の品質と世界で通用する価格競争力の実現
 - プースター圧縮機、スクロール圧縮機のレンジ拡大
 - 国別特性にあわせた市場開拓と製品開発
 - アネスト岩田にしか出来ない特定市場戦略製品の開発
- 圧縮機事業グローバル化の促進
 - 圧縮機製品の海外比率20%を40%以上に高める(世界の市場では1%強のシェア→伸長の余地有)
 - 圧縮機本体の生産拠点を集約し、グローバル供給体制を確立する



【特定市場戦略製品】
 車両搭載用直結スクロール圧縮機
 鉄道・ハイブリットバスのプレーキ用他エア源
 伝達ロスの無いモータ直結型でスリム化

ESTIBOが「(社)日本機械工業連合会会長賞」を受賞しました

社団法人日本機械工業連合会が主催する第30回(平成21年度)優秀省エネルギー機器表彰において、当社のオイルフリー電気駆動式小形増圧機(小形プースターコンプレッサEFBS:※ESTIBOシリーズ)が「(社)日本機械工業連合会会長賞」に選ばれました。この賞はユーザー様での実際の省エネ効果を評価し、その効果の優れた機器を表彰するものです。
 ESTIBOは理想的な圧縮空気エネルギーの使い方である「必要な時に必要な圧力と量を必要な場所に供給する」を可能にしたものです。
 工場では、空気配管圧力を低くおさえることによりメインコンプレッサの電力消費を大幅に削減できます。そして、その低い圧力では使用できない空圧機器には、ESTIBOで部分的に増圧した圧縮空気を使用します。その省エネルギー効果は工場全体の消費電力の5%以上の削減にもなります。
 ※ESTIBO【エスティボ】とは、省エネ技術革新者(Energy Saving Technology & Innovation Booster)を意味した当社プースターコンプレッサの登録商標です。



① 新製品の開発と市場投入

- 新たな事業拡大の為、「液圧機器製品」を開始しました。「塗装(塗料)」以外の全ての液体市場に対し、液体搬送・定量供給・塗布ノズル等の総合コンサルティングを行なう製品として、本年より発足いたしました。
- 液体: 接着剤、離型油、調味料、薬品、香料等
- 装置: 加圧タンク、各種ポンプ、スプレーガン、吐出ノズル、制御機器

② グローバル化の更なる推進

- 国内市場を重要視した上で、海外市場の拡大を図り、海外販売比率を、現在の40%から60%に拡大させます。
- 2009年度 ドイツに子会社設立 トピックス3参照。
- 2010年度の予定
 - モスクワ事務所の現地法人化…………… ロシア市場の開拓
 - ブラジル現地法人設立…………… 南米初の子会社
 - 真空機器…………… 中国・アメリカに担当社員派遣
- 今後の課題
 - グローバル化を推進するための物流体制・人材育成・内部統制・共通コミュニケーション等の課題に対応します。

グローバルな販路を拡大する新製品

世界の3Mとのグローバルビジネスアライアンス製品(自動車補修市場向けディスプレイ塗料カップ)
 世界中の自動車補修市場向けに多くの製品を供給する3Mと当社は、自動車補修市場向けディスプレイ塗料カップの販売について協力関係を結びました。アジア諸国・欧米諸国においてスプレーガンの高いシェアを誇る当社と世界60カ国に拠点を有するグローバル企業の3Mが協力し合うことで、世界市場における両社のシナジー効果が期待されます。



自動車補修市場向けディスプレイ塗料カップ(カップ洗浄剤を使用しない環境対応型の製品)

新会社 アネスト岩田ドイツ(ANEST IWATA Deutschland GmbH)が誕生

ヨーロッパ地域で8番目の子会社となるアネスト岩田ドイツが誕生しました。ドイツ市場には、これまでドイツ南西部の都市シュトゥットガルトの駐在事務所がスプレーガン・塗装機器の販売を行っておりました。
 新会社のあるライプツィヒはチェコ・ポーランドなどの東欧に近く、何世紀にもわたってヨーロッパの産業と精神文化に大きな刺激を与えてきた歴史ある町です。その歴史ある町から、ドイツと東欧諸国の市場開拓を進めてまいります。
 ドイツは日系・北米・欧州の自動車メーカーや塗料メーカーが拠点を置く大きな自動車市場があり、欧州最大の市場といわれています。
 また、ドイツには、スプレーガンの世界3大メーカー(当社・ドイツ・アメリカ)の1社があり、そのメーカーがシェアを独占しています。新会社の活動は、ドイツのお客様にとって良い塗装機器の選択肢が増えることとなり、必ず喜ばれるものと確信いたします。

【ドイツの写真】

真空機器

- 新市場開拓でシェアアップ
 - 医療向け
 - 装置
 - お客様仕様のカスタム製品市場
- エリア開拓でシェアアップ
 - アメリカと中国に日本の専門担当が常駐
 - インドの現地スタッフの充実
 - 欧州の自社ルート拡大
- 新製品の開発
 - グローバルローカルモデルの開発
 - メディカル用等の新市場開拓向け製品



分析装置等向け VTU-070 高真空排気ユニット
 スクロール方式とターボ分子方式を組み合わせた、高真空用真空ポンプ

③ 販売・価格競争力の向上

- 生産性の向上
生産設備を見直し、組立工程の無人化等を進めます。
- 業務の効率化
「小さな本社」を目指し、業務効率を高めます。
- コストダウン
グローバルな競争に勝つため、価格競争力を高めます。
- お客様密着型の営業
 - 営業のIT化促進
お客様に最適提案を最速でお届けできるよう、営業のIT化を進めます。
 - コミュニケーション施設の充実
お客様とのコミュニケーションを深めるために、横浜と上海のコミュニケーションラボ&ショールームに加え、新たに下記の施設を建設いたします。



宿泊施設付研修施設 圧縮機ソリューションルーム横浜

塗装機器

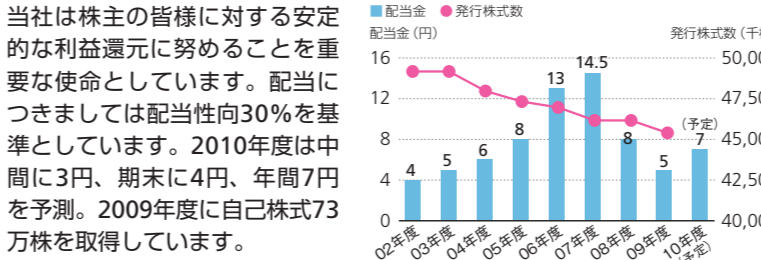
- 「塗装と塗布(コーティング)の総合コンサルティングを目指す」
 - 自動車補修市場での販売拡大と、工業塗装市場の攻略により、世界の「トップブランド」確立と世界市場で第一位を目指す。
 - 国内市場は、営業のIT化促進により、提案営業の充実を図る。
 - 開拓予定市場であるロシア/南米市場の攻略を加速する。
 - 新会社を設立した、ドイツ市場での成果獲得を推進する。
 - 東南アジアでの市場開拓のスピードアップを図る。
 - 中国市場の流入品/コピー品対策の推進。
 - サービス事業と塗装設備のシナジー効果により、先端塗装技術を追求めた「塗膜実現コンサルタントビジネス」を推進する。

2010年度の経営計画

2010年度連結業績予想 製品別売上高 (単位: 百万円)

	09年度実績		10年度中期計画			
	実績	構成比(%)	予想	構成比(%)	増減額	増減率(%)
売上高	17,886	100.0	21,000	100.0	3,114	17.4
内訳						
圧縮機	8,288	46.3	9,000	42.9	711	8.6
真空機器	1,430	8.0	2,000	9.5	570	39.9
塗装機器	6,644	37.2	8,500	40.5	1,856	27.9
塗装設備	1,522	8.5	1,500	7.1	△23	△1.5
営業利益	896	5.0	1,800	8.6	904	100.9
経常利益	1,103	6.2	1,850	8.8	747	67.7
当期純利益	711	4.0	1,100	5.2	389	54.7

2010年度配当計画の方針



海外関係会社



海外関係会社

- ANEST IWATA Europe s.r.l.(イタリア)
- Anest Iwata Italia s.r.l.(イタリア)
- AIR GUNSA s.r.l.(イタリア)
- ANEST IWATA France S.A.(フランス)
- ANEST IWATA(U.K.) Ltd.(イギリス)
- ANEST IWATA Deutschland GmbH(ドイツ)
- ANEST IWATA SEGI Corp.(韓国)
- 岩田友嘉精機株式会社(台湾)
- 嘉興阿耐思特岩田産業機械有限公司(中国)
- 阿耐思特岩田産業機械(上海)有限公司(中国)
- 上海阿耐思特岩田塗装機械有限公司(中国)
- 杭州阿耐思特岩田及佳空圧機有限公司(中国)
- 東莞阿耐思特岩田機械有限公司(中国)
- ANEST IWATA MOTHERSON COATING EQUIPMENT Ltd.(インド)
- ANEST IWATA MOTHERSON Ltd.(インド)
- AIR FACTORY ENERGY Ltd.(インド)
- Poworex-Iwata Air Technology, Inc.(アメリカ)
- ANEST IWATA USA, Inc.(アメリカ)
- ANEST IWATA-Medea, Inc.(アメリカ)
- ANEST IWATA Australia Pty. Ltd.(オーストラリア)
- Anest Iwata Scandinavia AB(スウェーデン)
- ANEST IWATA SOUTHEAST ASIA Co., Ltd.(タイ)

●連結貸借対照表(要旨)

(単位: 百万円)

科目	前期	当期
	平成21年3月31日現在	平成22年3月31日現在
●資産の部		
流動資産	13,389	12,954
現金及び預金	5,265	5,307
受取手形及び売掛金	4,003	4,071
たな卸資産	3,084	2,572
その他	1,036	1,003
固定資産	10,092	11,185
有形固定資産	5,511	5,665
無形固定資産	44	66
投資その他の資産	4,537	5,453
資産合計	23,482	24,140
●負債の部		
流動負債	3,990	3,881
支払手形及び買掛金	1,964	1,982
短期借入金	192	129
未払法人税等	10	61
その他	1,823	1,707
固定負債	2,670	2,818
退職給付引当金	2,455	2,252
その他	215	566
負債合計	6,661	6,699
●純資産の部		
純資産合計	16,821	17,440
負債純資産合計	23,482	24,140
自己資本比率	69.2%	69.4%

●連結損益計算書(要旨)

(単位: 百万円)

科目	前期	当期
	平成20年4月1日から平成21年3月31日まで	平成21年4月1日から平成22年3月31日まで
売上高	22,435	17,886
売上原価	13,634	10,983
売上総利益	8,800	6,902
販売費及び一般管理費	6,783	6,006
営業利益	2,016	896
営業外収益	359	336
営業外費用	347	128
経常利益	2,029	1,103
営業外収益	51	14
営業外費用	86	94
税金等調整前当期純利益	1,994	1,023
法人税等	625	263
少数株主利益(△は損失)	△7	48
当期純利益	1,376	711

●連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位: 百万円)

科目	前期	当期
	平成20年4月1日から平成21年3月31日まで	平成21年4月1日から平成22年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,614	1,778
投資活動によるキャッシュ・フロー	△94	△2,081
財務活動によるキャッシュ・フロー	△715	△438
現金及び現金同等物に係る換算差額	△121	39
現金及び現金同等物の増減額(減少△)	683	△703
現金及び現金同等物期首残高	4,375	5,210
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増額	152	—
現金及び現金同等物期末残高	5,210	4,507

●財務ポイント

- 1 製品△276百万円(△15.5%)、原材料△224百万円(△19.0%)、仕掛品△13百万円(△10.6%)減少分の資金を運用に利用しました。
- 2 債券の増加5.5億円、長期預金の増加4億円により増加しました。
- 3 69.4%となり、昨年から0.2ポイント上昇しました。

●連結損益計算書(要旨)

(単位: 百万円)

科目	前期	当期
	平成20年4月1日から平成21年3月31日まで	平成21年4月1日から平成22年3月31日まで
売上高	22,435	17,886
売上原価	13,634	10,983
売上総利益	8,800	6,902
販売費及び一般管理費	6,783	6,006
営業利益	2,016	896
営業外収益	359	336
営業外費用	347	128
経常利益	2,029	1,103
営業外収益	51	14
営業外費用	86	94
税金等調整前当期純利益	1,994	1,023
法人税等	625	263
少数株主利益(△は損失)	△7	48
当期純利益	1,376	711

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

●連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位: 百万円)

科目	前期	当期
	平成20年4月1日から平成21年3月31日まで	平成21年4月1日から平成22年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,614	1,778
投資活動によるキャッシュ・フロー	△94	△2,081
財務活動によるキャッシュ・フロー	△715	△438
現金及び現金同等物に係る換算差額	△121	39
現金及び現金同等物の増減額(減少△)	683	△703
現金及び現金同等物期首残高	4,375	5,210
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増額	152	—
現金及び現金同等物期末残高	5,210	4,507

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

●連結株主資本等変動計算書(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)

(単位: 百万円)

	株主資本			自己株式	株主資本合計	評価・換算差額等				少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金			その他の利益剰余金	為替換算調整勘定	評価・換算差額等	繰上利益剰余金		
平成21年3月31日残高	3,354	1,380	11,987	△19	16,702	81	△527	△446	565	16,821	
連結会計年度中の変動額	—	—	△92	—	△92	—	—	—	—	△92	
剰余金の配当	—	—	711	—	711	—	—	—	—	711	
当期純利益	—	—	711	—	711	—	—	—	—	711	
自己株式の取得	—	—	△234	△234	△234	—	—	—	—	△234	
自己株式の処分	—	—	△0	0	0	—	—	—	—	0	
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(株主資本以外の項目)	—	—	△3	105	102	△3	105	102	131	233	
連結会計年度中の変動額合計	—	—	618	△233	385	△3	105	102	131	619	
平成22年3月31日残高	3,354	1,380	12,606	△252	17,087	77	△421	△344	697	17,440	

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

- 4 主に売上高の減少等受取配当金が8百万円、他受取利息が6百万円減少しました。
- 5 主に為替差損が197百万円減少しました。為替差損は△273百万円→△76百万円に減少し、期初と期末レートはUS\$98.1円→93.0円、Eur129.8円→124.9円となっております。
- 6 主に、税金等調整前当期純利益の減少(△971百万円)と固定資産の売却による税金処理により減少しました。